

令和3年8月2日

関係者各位

日本ボーイスカウト滋賀連盟

県連盟コミッショナー 田中隆弘

浅柄野管理担当理事 吉久義則

## マダニによる被害発生の情報について (キャンプ等屋外プログラムでの注意喚起)

### 三 指

夏の各種活動への取り組み、ご苦労様です。

さて、この7月下旬に、浅柄野野営場におきまして、キャンプ活動中のスカウトが「マダニ」にかまれるという被害が発生したとの報告を受けました。その後、医療機関により適切な処置がなされたということですが、今後このエリアで活動されるケースも多いと思われるので、情報を共有すると共に、改めて全般的な注意を喚起させていただきたいと思っております。

各位におかれましては、かねてから活動中の安全には十分配慮して対策をされていることと存じますが、マダニをはじめ、スズメバチやマムシなど、屋外での生物による危険も数多く存在しております。事前の対応が難しいものもあるとは思いますが、各指導者が事前に「予防策」や「対応策」を十分に研究され、スカウトの安全行動やプログラムの安全対策に有効に取り入れていただきますよう、よろしくお願いいたします。

弥 栄

### 【参考】

スカウトライブラリー 野外活動における救急手当 救急法（改訂版 2019）

P.145～147 「3. ダニ咬傷・ツツガムシ病」より転記

### 3. ダニ咬傷・ツツガムシ病

ツツガムシ病とは、ツツガムシ病リケッチア(0.8～2 $\mu$ mくらいの大きさ)という病原体を持つツツガムシの幼虫(0.2mm程度)がヒトの体に吸着し、リケッチアがツツガムシからヒトの体に移行することにより起こる病気である。ダニの一種であるツツガムシの幼虫は山林、草地、野原、藪地に生息し、早朝カヤ草などに上がり動物がくるのを待ち受けていて、そばを通る動物に吸着するが、その際、偶然ヒトが通れば刺されて発病する。

以前は山形県、秋田県、新潟県などで夏季に河川敷の草むらなどで感染する例が大半であったが、1970年代後半より急速に発生地域が拡大して、現在では北海道など一部の地域を除いて全国的に発生している。種類により多少のズレはあるが、春から初夏(3月から6月ごろ)と秋から初冬(10月から12月ごろ)にかけての発生が多い。届出件数は年間約400例前後であるが、重症化すると死亡することもあり、毎年数名の死亡例が報告されている。治療にはテトラサイクリンやクロラムフェニコールという抗生剤が有効であるので、病院で治療を受けること。

## (1) 症 状

潜伏期間は5～14日で、典型的な症例では頭痛、39℃以上の高熱を伴って発症し、周辺のリンパ節腫脹がみられる。皮膚には特徴的なダニの刺し口がみられ、その後数日で体幹部を中心に不定形の発疹がみられるようになる。山林や野原に立ち入って1～2週間後、このような症状が現われたらすぐに医療機関を受診し、ツツガムシ病の恐れがある場所に立ち入ったことを申し出ること。

## (2) 予 防

ツツガムシ病は、病原体を持ったツツガムシに刺されて感染する。したがって、ダニやツツガムシに刺されないことが唯一の予防法である。野営や山菜採り、農作業、森林作業などでやむを得ず発生時期に発生地域に立ち入る場合は、以下の点に注意すること。

- ① 長袖、長ズボン、長靴、手袋を着用し、肌の露出を減らす。
- ② 皮膚の露出部位にはダニ忌避剤(ディート、イカリジン)を外用する。
- ③ 脱いだ上着やタオルは、不用意に地面や草の上に置かない。
- ④ むやみに草の上に座ったり、寝転んだりしない。
- ⑤ 体に付いてすぐに吸着するわけではなく、何時間もかかって吸着を開始するので、帰宅後はすぐに入浴し、ダニやツツガムシを洗い流す。特に皮膚のやわらかいところや隠れやすいところは念入りに洗う。
- ⑥ 衣類に付いているかもしれないので、衣類は屋内に持ち込まない。脱いだ衣服はすぐに洗濯する。
- ⑦ からだにくっついているダニをみつけたら虫体を破損させないように、先のとがったピンセットなどで引き抜いてみる。あせって指でつまみ取らないように。このとき、必ず皮膚に咬みついているあごの部分をはさんで慎重に、丁寧に除去する。もしその一部でも残してしまうと後に症状をきたすことがあるので、直ちに医療機関を受診すること。